



かぜくも

いわき支援学校

地域支援センター通信 No. 16

R元. 7. 10発行

～地域における、特別支援教育の核として～ 地域へつなぐ、チームでつなぐ

日頃より、当センターにご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年度、県の新規事業「切れ目のない支援体制整備事業」により、県内全ての県立特別支援学校に「地域支援センター」が設置され、また同時に本校15校に「教育支援アドバイザー」が配置されました。

いわき支援学校では、平成26年度に「地域支援センターかぜくも」を立ち上げ今年度で6年目を迎えます。この間、当センターでは相談を始め、いわき市内の幼稚園、小中学校、高等学校等への出かける支援や研修支援（ミニセミナー）、さらには就学前のお子さんの保護者さんを対象とした早期教育相談（かぜくもひろば）や勉強会（かぜくも教室）などを実施し、地域内の特別支援教育の核としてその機能を果たす役割に努めてきました。

さらに今年度は、いわき教育事務所やいわき市教育委員会との連携を密に、本校における「地域支援センター」の持ち味を発揮し、必要に応じて「教育支援アドバイザー」を活用するなど、地域の小中学校や高等学校等のニーズに応じたよりきめ細かな支援を進めていきたいと考えております。

本校教職員のもつ専門性が発揮できる組織・チームをつくり、特別支援教育の経験豊富なスタッフを準備しておりますので、お子様に関することでお困りのことなどがございましたら、どうぞお気軽に当センターまでご連絡をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

いわき支援学校長 佐藤 清悦

就学前のお子さんの遊びの場 かぜくもひろば

6月18日火曜日に第1回「かぜくもひろば」が開催されました。今回は就学前のお子さん8名とその保護者の方々が本校に集まりました。はじめは初めての場やお友達に緊張しながらも、滑り台やトンネルのある広場で一緒に遊ぶことができました。

お集まりでは、歌に合わせて、名前を呼ばれたお子さんにタンブリンを鳴らして返事をしてもらいました。パネルシアター「ねこのおいしゃさん」では、登場してくる動物に注目したり「にゃーっ！」と声を出したりとそれぞれ楽しんでいました。「ふわふわふくろあそび」では、たくさんのお袋を舞い上げたり寝転んだりして感触を楽しんでいました。保護者の皆さんからは「普段見ることのできない姿をたくさん見ることができた。」「場に慣れてからは楽しそうに遊んでいて、ほっとした。」等の感想を頂きました。



就学前の保護者さんの 学校見学会

5月22日（水）に、来年度就学を迎える年長さんの保護者及び関係機関の方々を対象とした学校見学会を実施しました。全体会では、はじめに本校教頭よりいわき支援学校の概要説明を行い、その後担当者より「地域支援センターかぜくも」についての説明を行いました。

全体会後は、二つの班に分かれて授業を見学しました。小学部では「生活単元学習」「算数」「体育」「音楽」の授業、中・高等部では「作業学習」を見学しました。

お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。



「子どもたちとのかかわりで大切にしたいこと」

副校長 五十嵐登美

子どもたちとのかかわりの中で、行動の理解に悩んだときは、その子の行動を「どのようにみるか、どのように捉えるか」が大切になると考えます。例えば、「友達をたたくなど乱暴な行動をする」ことが心配される場合、その要因として「見通しが持てないことや状況が把握できずに混乱している」「言葉の理解や情報処理が十分にできていない」「失敗経験が重なって不安が強い」「突然の予定や環境の変更に強い不安がある」「自分の気持ちを表現する方法がわからない」など、一人一人その要因が違うことが考えられます。子どもたちの特性等による困難さや生活のしにくさに配慮するとともに、子どもたちが今見せている行動にはどのような背景や要因があるかといったことを考えると、子どもたちの行動がそれまでと違ってみえてくるかもしれません。そういった視点を持つことがかかわりの糸口になりますし、私たちの専門性のひとつだと考えます。

また、その子が実現したかったことは何か、今どのような思いでいるか等、子どもたちの思いに心を寄せ、向き合っていくことも大切だと思います。そのことが、私たちのかかわり方や環境設定を見直すきっかけにもなると思います。

以前、あるお母さんが「子どもが小さいときは、悩んでばかりで子どもを理解するってどういうことかわからなかったけれど、今、学校の先生方といろいろ話せる関係になって、子どもの姿も少しずつ見えるようになって、今がその途中なんだなって思えるようになりました。」と話してくれたことがあります。悩みながら子育てをしている保護者の方にとって、ともに子どもたちのことを考え、かかわってくれる人がいてくれることが励みになると思います。私たち教師は、そういう存在でありたいものですね。



幼・保・小・中・高校の先生方

< いわき地区特別支援教育研究会教育セミナーⅠのご案内 >

いわき支援学校を会場に7月25日(木)に「いわき地区特別支援教育研究会教育セミナーⅠ」が開催されます。午前中は実技講習会が行われ、9つある講習会の内、本校の地域支援センターの教育支援アドバイザー、鈴木貞安先生による「発達検査の結果を指導に活用しよう」の講習会もあります。午後は東京都立矢口特別支援学校主任教諭の川上康則氏をお招きして、「発達につまずきがある子どもたちが輝く授業づくり」の内容で講演会が行われます。ご参加をお待ちしています！ ※詳しくは本校HPをご覧ください。

< ミニセミナーのご案内 >

小・中・高等学校等の先生方への研修支援として、下記の日程で本校を会場に、ミニセミナーを行います。時間は16:00～16:45です。特別支援教育に関心のある方の参加をお待ちしています。

7月22日(月)「LD/ADHDについて知ろう」	講師：本校小学部教諭
9月12日(木)「今からできる就労支援」	講師：いわき障がい者相談支援センター 白土様
10月31日(木)「ことばを育てる」	講師：本校小学部教諭
11月27日(水)「いわき市の福祉サービスと課題」	講師：いわき障がい者相談支援センター 川崎様



かぜくも

いわき支援学校
地域支援センター通信 No. 17
R元. 12. 13発行

「一つのことば」



教頭 加茂 敬

私たちは、人に何かを伝えたいときは「ことば」を使います。子どもが「ことば」を言えるようになるためには、分かることをたくさん増やしてあげるかかわりが大切になります。また、子どもが伝えたいという気持ちを育てることも大切になります。自分自身のことを考えると、はたして自分の子どもたちとしっかりと会話できているのか、と反省させられます。どんなに忙しくても子どもからのことばに私たちは耳を傾け、受け止めてあげられるよう心掛けたいものですね。ここで、北原白秋の「ひとつのことば」の詩を紹介します。

ひとつのことばを	ひとつのことばを	やさしいことばは	きれいなことばは	ひとつの心を持っている	ひとつのことばで	ひとつのことば						
美しく	大切に	やさしい心	きれいな心	それぞれに	泣かされる	楽しく笑い	心が痛む	頭が下がり	なかなおり	けんかして		北原 白秋

子どもたちが元気に楽しくなるような魔法の言葉を掛けたいものですね。



未就学児童の保護者さんの かぜくも教室

かぜくも教室では、就学前のお子さんの保護者さんを対象とした勉強会です。

第1回かぜくも教室では、「幼児期における体幹づくり」～日常生活動作の改善のために～をテーマに、本校の伊藤教諭が講義を行いました。姿勢の重要性や正しい姿勢を支援するためのプロセスなどについて、実践を交えながら講座を行いました。

第2回は、「子どもにかかわる話しかけ（指示）の仕方」をテーマに、本校の教育支援アドバイザー鈴木貞安氏が講義を行い、子どもの好ましい行動・好ましくない行動・許しがたい行動について、子どもの行動をしっかり観察しかかわることが大事だということなど、具体的な例をあげながらお話ししました。

第3回は、本校高等部3年生の保護者さん2名を講師にお迎えして、「先輩お母さんの話を聞こう」をテーマに行いました。参加された方々から「兄弟児への対応について」や「休日につれていく場所」「就学について」「性に対しての家庭での関わり」など多くの質問があがりました。その一つ一つに明るく和やかに、わかりやすくお話していただいて、参加されたお母さんたちも頷いたり涙ぐんだりしながら熱心に聞き入っていました。

次回は12月13日（金）に、「子どもが育つ環境づくり」～関係機関とのよりよい関係のために～を開催予定です。参加を希望される方は、地域支援センターまでお問い合わせください。



特別支援教育研修会が行われました

9月11日（水）に、本校体育館を会場に特別支援教育研修会を行い、本校教職員と県内小中高等学校、特別支援学校の先生方が参加しました。

講演会のテーマは「保護者、地域と良い関係をつくる学校の在り方」で、明治大学文学部教授の諸富祥彦（もろとみ よしひこ）先生を講師にお迎えしました。

職場での教員同士や保護者との関係づくりのために、人間関係をエンジョイし、お互いに程よい気分になれるようにすることの大切さや、自ら援助を求めることができるような環境づくりなど、日頃の人間関係をそれぞれが見つめ直す機会となり、充実した時間を過ごすことができました。



地域の先生のためのミニセミナー

ミニセミナーは、市内の幼・小・中・高等学校の先生方や特別支援教育に関心のある方などを対象とした特別支援教育にかかわる勉強会です。今年度はこれまで、3回実施しました。

第1回は「LD/ADHDについて知ろう」というテーマで、本校小学部の上遠野真理教諭を講師に実施しました。今回は、一般社団法人 日本LD学会並びに一般財団法人 特別支援教育士資格認定協会が監修した「LD/ADHD等の心理的疑似体験プログラム第3版」を基にした研修会でした。実際の生活の中での子ども達の困り感を体験し、そのときの気持ちを考えるきっかけとなり、日々の授業やかかわりなどを見直すことができました。

第2回は「今から知ろう、一般就労と福祉就労」です。いわき障がい者相談支援センターの白土修様、いわき障害者就業・生活支援センターの佐藤香様を講師にお招きして実施しました。いわき障害者就業・生活支援センターの概要や、事前にアンケートで寄せられていた質問などに丁寧に答えていただきました。参加者の方からは、「障がい者相談支援センターで支援を受けている方々の様子や気持ちなどについて、聞いてみることで当事者のことをより理解できると思った。」などの反響をいただきました。

第3回は10月31日（木）に「ことばを育てる」というテーマで、本校小学部の古川英樹教諭を講師として実施しました。ことばを支える様々な力があることややりとりの中でことばを育てていくことの大切さなどについて教えていただきました。

それぞれのミニセミナーで参加者の皆さんから、「もっと様々なことを知りたい」という多くのご意見をいただいています。今年度最後の4回、そして来年度以降により充実した研修会としていけるようにしていきたいと思えます。





かぜくも

いわき支援学校
地域支援センター通信 No. 18
R2. 2. 28発行

「ちょっとだけ見方、考え方を考えてみませんか」

教頭 加藤 一之

この言葉は、私が相談員として相談支援を行っていた頃に伝えていた言葉です。大きくではなく「ちょっと」だけでも見方、考え方を変えることができれば…関わる人の子どもへの支援や気持ちも変わるのではないのでしょうか。

「子どもの言葉(話す、伝える)」について

- 言葉の本質は曖昧なもので伝わりにくいものです。子どもの「分からない」の根幹には「伝わっていない」ことが多く、丁寧にかつ意図的に伝えることを意識することが大切です。

「子どもの見方」について

- 課題があると思い込むと関わりは課題に焦点化しやすく、子どもとの関係を難しくすることが多いようです。課題より良いところを見ようとする意識を忘れないようにしましょう。
- 「大人は褒める人?叱る人?」子どもは褒められることで、大人への信頼が構築されます。本当に困ったときに相談できる存在にもなれます。大人への信頼を構築する段階では、安心感を得ようとする段階であるとも言えます。
- 一番困っているのは子どもではありませんか。子どもたちが何に困っているのか、それは大人の考えとのズレはないか。子どもの気持ちになって考えると改善の方向が考えやすいものです。

「子どものつぶやき」について

- 子どもは、困っている状況を言葉ではなく行動で示します。これは言葉での十分な説明がなされないだけで、行動や表情、仕草、つぶやきで伝えていきます。この微細な SOS を拾うことが大切であり、解決するためだけではなく、気づいてくれた、分かってくれたという安心感を与えるためであるとも考えています。

「子どもの気持ち」について

- 子どもも人に必要とされているという自己有用感または、自分ではできるという自信や自尊感情があります。これらについて、自己肯定感を高めるだけではなく、失わせないようにするための関わりや見方が大切であると考えます。

就学前のお子さんの遊びの場 かぜくもひろば

今年度は6月から1月に計6回かぜくもひろばを開催しました。毎回10名ほどのお子さんとその保護者の方々に参加していただき、様々な遊びや先生とのかかわりを楽しみました。継続してかぜくもひろばに参加してくれたお子さんも多く、回を重ねるごとに積極的に遊びを楽しむ姿が見られました。

お集まりでは、歌に合わせてタンブリンを鳴らしてお返事をしてもらいました。みんな上手にタンブリンを鳴らして元気にお返事ができました。パネルシアター「ふしぎなたまご」では、たまごの中から何が出てくるか注目して見たり、前に出てきて先生と一緒にたまごの殻を開けたりと楽しんで見ることができました。ふれあい歌遊び「パン屋さんにお買い物」では、お母さんと一緒に歌に合わせて、頬に手を当てたり、鼻や耳をつまんだり、最後はくすぐったりとふれあい遊びを楽しみました。

保護者の皆さんからは、「回を追うごとに慣れてきたのか落ち着いてきているのが実感できました。」「いつも楽しみにしていてお友達や先生方とかかわることのできるが増えました。」等の感想をいただきました。





子どもたちに豊かな体験を



教育支援アドバイザー 鈴木 貞安

我が子や近所の子のエピソードを家内と話すことがあります。私の末の娘が4歳のころの出来事ですが、小学2年の姉がいたずら心で末の娘に桜の葉を渡し、「これでお菓子が買えるから行ってきて」と言われて近くのお店にお菓子を買に行ったのです。店のおばさんは、それには困ってしまったと思いますが、本人のほしいお菓子を渡してくれたのです。また、近所の小学4年生の男の子は、ほしいものを買えるだけの代金を持ち合わせがなく、「出世払いするからまけてください」というようなことをいって買い物をしていた様子も見たことがありました。

子どもたちが小遣いを持ってお店に買いに行く貴重な社会体験のできる環境でした。店の主人のかかわりも何となく懐かしさを感じたものです。今の子どもたちは、殆ど保護者の同伴での買い物が多く、代金を払うのもまかせっきりの多いと思います。

子どもたちが、お店で物を自分で買うときに様々な思考が働きます。例えば比較思考では自分の基準である選択力、見通しをつける手持ち金、残金などの計算・活用力など、生活に密着した非認知能力が働きます。それが、子どもにとって豊かな体験となっていくのだと思います。



地域支援センターかぜくも活動状況



○幼・保・小・中・高の先生方の研修支援

ミニセミナー (64名)

○かぜくも相談 (127件)

・電話、来校相談 (106件)

・出かける支援 (21件)

○早期教育の充実

・かぜくもひろば (57名)

・かぜくも相談<就学前> (44名)

・学校見学会 (48名)

・かぜくも教室 (30名)

今年度を振り返って



今年度も、昨年度に引き続き教育支援アドバイザーが配置され、地域支援センターの担当とともに、早期教育相談や出かける支援・電話来校相談などを行ってきました。

“地域支援センターかぜくも”が設置されて6年となり、地域の方々のご理解を得ながら「かぜくもひろば」や「かぜくも教室」、「ミニセミナー」などに毎年多くの方に参加していただいております。次年度も引き続き「かぜくも」の充実を図ってまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

